

## 湯浅町立図書館 ～湯浅えき蔵 駅のおしゃれな図書館～ (湯浅町)



紀勢本線湯浅駅周辺が大きく変身した。旧駅舎はそのままに、有料駐車場だった所に白壁の醤油蔵を模した駅舎、及び図書館や会議室、津波対策の避難場所となっている屋上など、将来を見据えたコミュニティー施設ビルでもある“湯浅えき蔵”が併設して建っている。

この“湯浅えき蔵”の二階に町立図書館がある。入館してまず目につくのが正面の壁一面の本棚と重伝建地区の写真。大胆かつ整然としたレイアウトは圧倒的なスケールで迫ってくる。そしてこの壁の裏側に当たるところにカフェがあって、くつろげる仕掛け作りが為されている。この壁面、フォトジェニックな景色として人気がある。湯浅町立図書館は公立図書館としては実に歴史が長く、明治41年(1908)に遡る。湯浅は日本の醤油発祥の地として知られている。(本シリーズNo.31で紹介済み)そして重要伝統的建築物群保存地域には江戸時代から続く老舗の醤油醸造所が健在だ。こうした歴史と伝統に裏打ちされた地域の特色をうまく具現化している湯浅えき蔵、このように駅に併設されている複合施設は地方の新しいあり方として注目される。

(取材 萬羽)



## 高橋克己博士 ～世界初 ビタミンA製法確立～ (和歌山市木本)

彼は明治25年(1892)、ここ和歌山市木ノ本に生まれた。東京帝大農芸化学に進み、同大学院にてビタミンAの発見で知られる鈴木梅太郎教授のもと、油脂中の栄養成分の研究に注力。鈴木教授との関係は大学院修了後理化学研究所に進んでからも続いた。大正2年(1913)頃、肝油等の油脂成分中に動物の成長を促進する栄養素(後のビタミンA)があることが知られるようになってから各国で研究が進められていたが、ビタミンAは極めて不安定な物質で安定的に分離抽出する方法がなかった。しかしながら彼はタラ肝油から特殊な方法で分離抽出することに世界で初めて成功。この抽出成分は、多くの疾病特に夜盲症などの治療に顕著な効果があることが分かった。「理研ビタミン」の誕生である。「理研ビタミン」の成功は、疾病に悩む多くの人々を救っただけでなく、特許収入は当時の理化学研究所の財政にも多大な貢献をした。現在の理化学研究所があるのも高橋博士のお陰と言っても過言ではない。

しかし残念ながら病氣により大正14年(1925)、32歳の若さで早逝した。

この和歌山が誇るべき博士の生誕地がここです。

(取材 萬羽)



整備された生誕地 (和歌山市木ノ本1038)